

設立趣旨書

現在、障がい者を取り巻く環境は改善されてきたとはいえ、障がいのある子どもたちに必要な育ちの場、他者と交わる場は、地域の中において十分ではありません。障がいのある人が、自分の能力を発揮でき、その人らしく自信をもって生きることができる環境を地域の中に作っていくことが求められています。

一方、高齢者が地域の中で自由に集い、様々な活動ができて気軽に過ごせる場もまた十分ではありません。特に小雀地区は山坂が多く交通の便が悪いため、一人暮らし高齢者の孤立化や健康不安が心配される状況にあります。体を動かし他者と交流する中で心身ともに健康でいられるような活動を行う公共的な施設が身近に求められています。

そこで、地域の中に、だれもが心地よくそこに居ることができる、バリアフリーな居場所があるとよいと考えました。障がいのある人もない人もだれもがそこで憩い、交わり、楽しむことができるようなスペースであり、高齢期の健康維持に支援が必要な方々にとっては、定期的に通える場となるようなスペースです。また、高齢の方々がその地域で生きてこられた暮らしの経験や文化を若い世代に伝え、若い世代は新しい発想を生かした活動を生み出していくような学び合いの場が兼ねられるとよいですし、ちえのわで学び、成長した子どもたちもそのスペースの運営に携わることができれば、大きな自信につながることでしょう。

ぐる一ぷ・ちえのわは、1987年より「まなぶ・あそぶ・つくりだす」活動を通して、だれもがその人らしく生きることを応援してきました。2006年より小雀町に民家を借りてちえのわホームを立ち上げ、個別の支援が必要な子どもたちへの学習支援や余暇支援活動、織物や草木染、陶芸などアート活動を行うことで、幅広い年代の方との出会いやつながりが広がってきました。さらに2020年に敷地内の最後の民家が空き家になったことから、ヨコハマ市民まち普請事業の支援を受けて「車椅子でもOK!だれでも使える多目的交流スペース」設置の活動を行い、地域に理解の輪が大きく広がってきています。

今後、多目的交流スペースに様々な人が集うことで、「つながる・支え合う・地域で生きる」意識が生み出され、「バリアフリーな地域の居場所」であるとともに、違いを認め合い、様々な交流が生まれる「インクルーシブな（多様性と包摂性をもった）地域の広場」になることを目指していきます。

地域の中で共生の意識が育まれ、多様性と包摂性のある社会へと深まっていくことを願い、これまでの活動をより広げ、継続的に行っていくために、法人の設立を決意し、ここに特定非営利活動法人ぐる一ぷ・ちえのわを設立いたします。

2021年11月23日

法人の名称	特定非営利活動法人ぐる一ぷ・ちえのわ
設立代表者	奥山雅子